



Beethoven Baby Grand Symphony Edition



精細さとスケール感を両立

プロフィール

ウィーンアコースティクスの Concert Grand シリーズの最上位モデル Beethoven Concert Grand と同じ Beethoven の名を冠しているが、大きさとユニット構成から Mozart Grand Symphony Edition の低域強化モデルと捉えることができる。ミッドレンジとウーファアの振動板には特長的な透明のポリプロピレン系の X3P コーンを採用。それぞれポリマーの配合を調整して最適化されている。特に2基のウーファーにはクモの巣状にリブを入れて補強することで剛性を高めている。トゥイーターはシルクドームにコーティングを施し、磁気回路にはネオジウムを搭載している。グリルネットには高域拡散のディフューザーが中心軸に設けられている。メタル系コーンのように高域にピークを持たないミッドレンジと、トゥイーターとのつながりも素直で滑らか。入力端子は安定して性能を引き出せるシングル仕様。ベース部の形状が変更され、大型スパイクにより安定した設置を確保している。

SPEC

型式 ● 3ウェイ4スピーカー・バスレフ型 / 使用ユニット ●
 [W]152mm×2 [MW]152mm [T]28mm / 出力音圧レベル ● 91dB / 推奨アンプ出力 ● 40~250W / 再生周波数帯域 ● 30Hz~22kHz / インピーダンス ● 4Ω / クロスオーバー周波数 ● 170Hz、2.6kHz / 入力端子 ● シングルワイアリング、バナナプラグ対応 / 大きさ ● 170W×980H×325Dmm (本体)、260W×1065H×325Dmm (スパイクスタンド含む) / 重さ ● 27.5kg / 仕上げ ● チェリー、ローズウッド、ピアノブラック、ピアノホワイト / 問い合わせ先 ● ナスベック ☎0120-932-455 / ウェブサイト ● <http://naspecaudio.com>

同価格帯のスピーカーシステム特選モデル

SPL/2R2 (スベンドール) [11-12月号掲載]	FS249BE (エラック) [12-09月号掲載]
AURUM WOTAN VIII (クアドラル)	FS249 (エラック) [08-09月号掲載]
[10-07月号掲載]	Reference3.5 (アンソニー・ギャロ)
G1302MG (フォステクス) [12-01月号掲載]	[11-06月号掲載]
805Diamond (B&W) [10-11月号掲載]	GX250 (フォステクス) [10-12月号掲載]
330CE (エラック) [09-05月号掲載]	PL200 (モニターオーディオ) [09-08月号掲載]
Auditor M (ソナス・ファベール)	KX-3UB (クリプトン) [10-09月号掲載]
[08-11月号掲載]	SCM20sl (ATC) [97-04月号掲載]
Liuto (ソナス・ファベール) [10-01月号掲載]	Akurate 212SE (リン) [08-12月号掲載]
HL 2.2 (アルベド) [12-02月号掲載]	Helicon400mkII (ダリ) [07-06月号掲載]
SX-M7 (ビクター) [08-12月号掲載]	
T-3G (ウィーンアコースティクス) [05-05月号掲載]	
Performance6 (モダンショート)	
[11-10月号掲載]	

須藤一郎



シルクドームトゥイーターとスパイダーコーンウーファーを搭載した3ウェイ4スピーカーのスリムなフロアスタンディング型である。再現されるサウンドステージには骨太で歯切れの良い音場の展開と爽快かつ密度感にも優れたサウンドイメージの定位がある。パークッションなどの滑らかな躍動感には引き締まった響きの美しさを

とフォーカスの良さが融合する。ストリングスなどの繊細な響きの拡散には肉厚な質感の支えがある。豊潤な低域の支えも好印象である。声楽の抜けの良さや見通しの良い定位感には流麗な響きの質感をもイメージすることが出来る。ジャズボーカルの臨場感も生々しくて艶っぽい。重厚に展開するオーケストラはエネルギーギッシュ。

神崎一雄



同社の最上級モデルの名を冠した4スピーカー3ウェイのトールプロポーション・フロア型。例の蜘蛛の巣状リブを持つ独自の透明コーンの低域ユニットは、エンクロージュアと共に外観の特長にもなっている。そして何となく豊かに展開する音場再現は印象的で、サイズを裏切らないスケールを聴かせ

テイも魅力。コーラスやアカペラの歌唱はチャームの極致。音場は高い澄明感が素晴らしい。いつぼう楽器個々の再現も、「らしい」リアリテイのブロックフレーターをはじめとする古楽器群や、伸びやかなマリンバ、爽快感溢れる弦楽アンサンブルなど……。豊かなスケール感から精細さまで充実した再現が魅惑的である。

藤岡 誠



Vienna Acousticsの輸入元が変わりブランド名もウイーンアコースティクスに変わったというか戻った。もちろん、音質・音調は従来通りだから問題はない。さて、私はいつもこのブランドを「耳のいいメーカー」として紹介しているが、本機も相変わらず「聴かせ方」を心得た巧みさを感じる。弦

楽合奏は混濁がなく繊細。中域周辺も固有のクセがなく、声楽、ピアノやピアノフォルテがスルーな響きだ。低域方向もバルブ系振動板ではなかなか出せないハイスピードさがあり、中域との音色的つながりも良好で本機の解放感の源となっていると思う。入力は2端子。なお、前面グリルは定位と空間の確立のため装着使用が原則である。

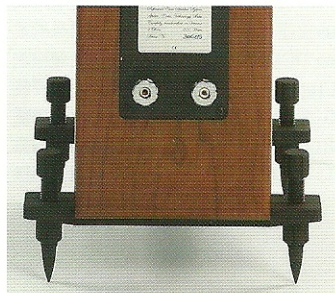
福田雅光



高SN比で洗練された解像度の高い性能が魅力だ。澄みきった空間、研ぎ澄まされる表現力、混濁がなく低歪で明瞭、格段に純度が高く繊細で透明な音質である。倍音スペクトラムは冴えて美しく伸びきる。高域ユニットの性能、新採用の高剛性大型スパイクのメリツトもあるかもしれない。低域の量感は多少弱い面もあるが、レス

ポンスに優れ締まりを効かせ、コントラストの高い中低域を備え分解力はしっかりしている。声楽は澄みきりユアンスを柔らかく霧囲気が細かく、音像フオーカスも中央部で明確に結ばれ、位相特性が優秀といえる。パロック音楽の空間に響く余韻も澄みきって爽やかに、高純度で精度の高い大変ニユートラルな音質である。

新設計大型スパイク採用
最適なメカニカルグランド確保



クモの巣状のリブで補強
スピード感ある低域を再生



自然なつながりを聴かせる
X3Pコーンミッドレンジ

